

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年6月11日（水）

2 確認箇所

G4南タンクエリア（図1）

3 確認項目

溶接型タンクの点検状況

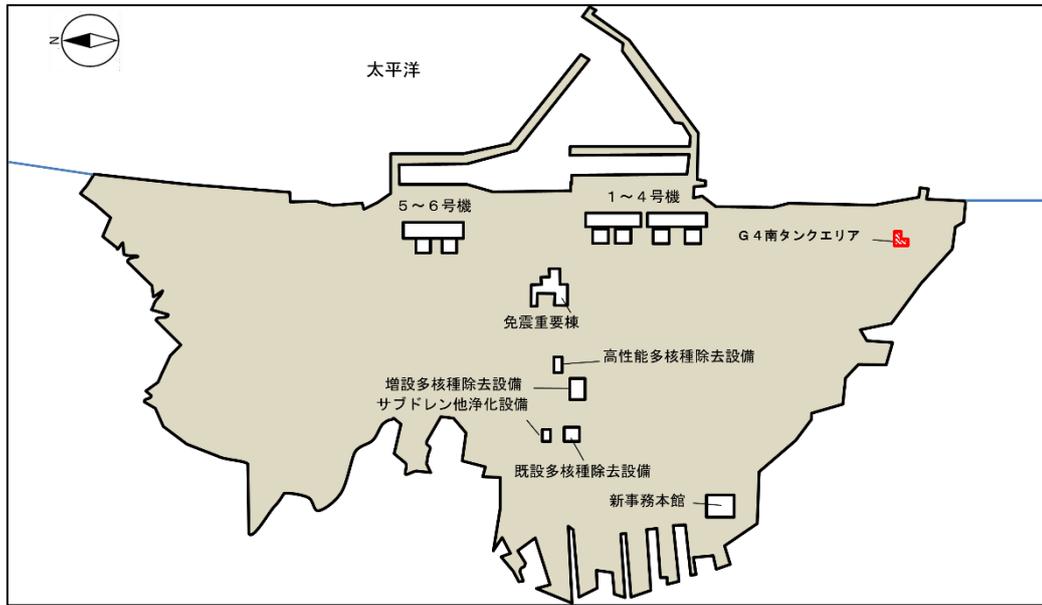
4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所の構内には、多核種除去設備等処理水（ALPS処理水）等を貯蔵するため、1,000基を超える溶接型タンクが設置されている。これらのタンクは、腐食を考慮した塗装仕様、構造となっており、耐用年数は20年と設計されている。

東京電力は、これらタンクの長期的な健全性を確保するため、耐用年数を待たずに定期的な外面及び内面の点検を実施し、異常の早期発見と適切な補修に努める方針としている。

今回は、G4南タンクエリアで実施されているタンク内面点検について確認した。

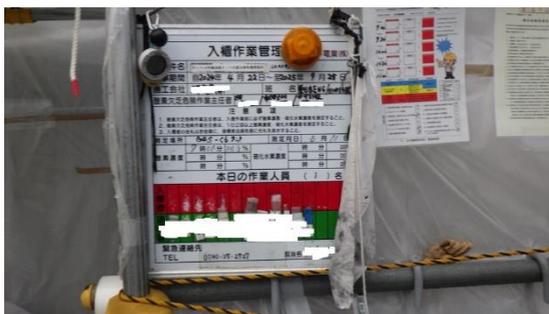
- ・作業員がタンク内部に入り、タンク内面点検及び内面塗装に向けた準備作業を実施していた。（写真1）
- ・タンクの入口には汚染拡大防止のためのハウスが設置されており、タンク内部はYゾーン（カバーオール着用区域）に指定されていた。
- ・タンクの入口には「入槽作業管理表」が掲示されており、注意事項、酸素濃度の測定結果、タンク内に入っている作業員の氏名などが記載されていた。（写真2）
- ・タンクエリアの内堰内には、約8 cmの深さまで雨水が溜まっていた。（写真3）
- ・タンク連結弁は「閉」の状態にあり、開閉操作ハンドルは許可なく操作ができないように施錠されていた。（写真4）
- ・確認した範囲では、タンク及び接続配管からの漏えい等の異常は確認されなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
点検及びタンク内面塗装に向けた
準備作業の状況



(写真2)
「入槽作業管理表」の掲示状況



(写真3)
タンク内堰内に溜まっている雨水
の状況



(写真4)
タンク連結弁の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。